

観察研修報告書

1 委員会名
文教民生常任委員会
2 実施名称（テーマ）
文教民生常任委員会県外観察研修 (1) 松本市食品ロス削減の取り組みについて (2) 塩尻市重要伝統的建造物群保存地区の現状、活用、課題について 宿場町奈良井・漆工町木曾平沢・国指定重要文化財民家
3 実施期日
平成30年8月1日（水）～2日（木）
4 実施場所
長野県松本市役所 長野県塩尻市総合文化センター
5 実施目的
(1) ゴミ減量化については、全国の自治体で取り組み努力をしているが、大きな改善には至っていない。各家庭から排出させるゴミの総排出量は、1人一日あたりの排出量の現状は、全国平均 925 g。群馬県 1.005 g（全国 43 位）。中之条町 1.042 g で県内 35 自治体中 22 位。各家庭から排出される生活系可燃ゴミの排出量は全国平均 415 g、群馬県 567 g で 47 位、中之条町 513 g、県内 35 自治体中 12 位となっている。 松本市での取り組み実施の「残さず食べよう 30・10（さんまる・いちまる）運動を参考に中之条町でのゴミ減量化の参考とする。 (2) 塩尻市にある重要伝統的建造物群保存地区「宿場町奈良井」「漆工町木曾平沢」国指定重要文化財「民家6件」等の活用、現状、課題等について研修し、中之条町にある「六合赤岩養蚕農家群」「富沢家住宅」「東谷風穴」の活用の参考とする。
6 参加者の氏名
委員長 篠原文雄 副委員長 唐沢清治 委員 福田あい子 福田弘明 小栗芳雄 安原賢一
7 その他

視察研修等委員別報告書

1 作成者氏名	篠原文雄
2 視察研修の実施名称（テーマ）	文教民生常任委員会県外視察 (1) 長野県松本市食品ロス削減「残さず食べよう 30-10運動」事業について (2) 長野県塩尻市重要伝統的建造物群保存地区活性化対策事業について
3 実施結果に対する所感、意見等（質疑・意見交換した内容、今後の町政に生かすべき点等）	(1) 松本市食品ロス削減「残さず食べよう」事業について ①食べられるものにかかわらず捨てられしまう食品を「もったいない」の気持ちで市民と飲食店、宿泊施設また利用者等で取り組み事業の推進に努めていた。 ②家庭での取り組みでは、家庭から出る生ごみのうち約3～4割は食品ロスによる物で、園児、小学3年生を対象に食品ロス削減啓発紙芝居や、30—10運動応援ソングを活用し、子供たちと家庭が一体となり取り組んでいた。 ③松本市（H25年調査）で食品ロス調査を実施した結果、生ゴミの1／3が食品ロスで、未利用食品や野菜の可食部の廃棄であることが分かり、家庭での食品ロスを減らす事が大切であるため取り組むきっかけとなった。 (2) 塩尻市重要伝統的建造物群保存地区活性化事業について ①塩尻市内には、重要伝統的建造物群保存地区として「宿場町奈良井」「漆工町木曾平沢」国指定重要文化財民家6件があり、保存には国・県・所有者と連携をとり、保存・活用に努めている。 ②塩尻市では、文化財の担当は市教育委員会社会教育課が行い、重伝建専門員を配置し、対応し、その知識・対応力・行動力はすばらしいものであった。 ③市活性化のため「奈良井宿場祭」「アイスキヤンドル祭」「鎮神社夏まつり」等を行い、発信力強化、新たな発展に努めていた。 ④国指定文化財の中、個人所有物、自治体所有物が共有されているが、個人所有物についての公開性は大きく制限されている、自治体所有物は原則一般公開され、発信力は高くなる、また修理、修景の際しての補助制度にも大きな異なりがある。
4 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ）	(1)食品ロス・ゴミ等廃棄物の減量化には取り組み対応しているが、更なる減量・再利用対策を示し、行政と町民が一体となり取り組む必要がある。 (2)中之条町には、六合赤岩養蚕農家群・富沢家住宅を始め重要な建造物が残されている、また野反湖・芳が平湿地・チャツボミゴケ群生地などの、貴重な自然景観もありこれらを一体的にとらえ、活用していく事が大切である。

視察研修等委員別報告書

1 作成者氏名
唐沢清治
2 視察研修の実施名称(テーマ)
1) 松本市ごみの減量化の取り組みについて(食品ロスについて) 2) 塩尻総合文化センター(重要伝統的建物群保存地区について) 3) 奈良井宿視察
3 実施結果に対する所感、意見等(質疑・意見交換した内容、今後の町政に生かすべき点等)
<p>1) 平成二十二年よりもったいないをキーワードにごみの減量化施策に取り組んでいる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・残さず食べよう30・10運動(飲食店での食べ残しを減らす取り組み) 注文の際には、適量を注文する。乾杯後30分間は料理を楽しむ。お開きの前10分間は自分の席にもどつて再度料理を楽しむ取り組み。また推進店・事業所認定制度や啓発グッズ、持ち帰りグッズの作成等の取り組みも行っている。更なる周知・啓発を図り、息の長い運動とすることが大切だと思う。 ・残さず食べよう30・10運動(家庭での食べ残しを減らす取り組み) 毎月30日は冷蔵庫クリーンナップデー、毎月10日はもったいないクッキングデーとして周知を図っている。もったいないクッキングレシピの開発公開、その活用(小学生、大学生による調理実習また全国大会での勉強会・試食会) フードドライブ事業(食品ロスの削減と生活困窮者支援を目的) ・園児への参加型環境教育活動、小学校環境教育事業。これらは、食育にも通じるし、ものを大切にする子供たちの心の発達を育む素晴らしい取り組みだと思う。 ・これかららの課題。推進店・事業所ではこれまでとは異なる方法での周知啓発や事業所での食品ロス発生状況の把握。環境教育では手つかず食品の破棄抑制(賞味期限・消費期限の違い等) ・その他の取り組み。府内、県との連携→全国美味しい食べきり運動ネットワーク協議会→第1回食品ロス削減の全国大会→食品ロス削減の全国的な機運を醸成するために「10月30日を食品ロス削減の日」にこういった取り組みによりもったいない精神の広がりを願う。 <p>2) 歴史的景観と漆工という伝統工芸の職人町として木曽平沢が国的重要伝統的建物群保存地区に選定される経過や奈良井宿の説明また国の重要文化財、国の登録有形文化財の違いや文化財と一般建物の補助の違いそれから公共物と私有物の補助率の違いなどの研修をする。</p> <p>3) 檜間屋中村亭の歴史、造、檜の生産販売、改造された所の検証。町割り又町なみづくりなどの研修を受ける。空き家を利用の蕎麦屋で昼食をとる。ほかにも移住者が店を構えていた。</p> <p>重伝建専門委員の渡邊泰さんに終始説明を受けた。その熱意・研究心・人柄などに心地よさを感じた。</p> <p>赤岩の重伝建に実際に蚕を飼う人がいたり体験ができれば面白いと思う。 文化財で火を燃やしても構わないという話なので富沢家で火を燃やして管理運営をする人がいれば文化財の保護や訪問者へのおもてなしにまた町の案内に通じると思う。</p> <p>4 その他(今後の課題・調査研究すべきテーマ)</p> <p>園児への参加型教育活動、小学校環境教育活動 地元の人たちとの連携。将来を見据えた取り組み。</p>

視察研修等委員別報告書

1、作成者氏名
福田あい子
2、視察研修の実施名称（テーマ）
○ゴミ減量化・食品ロス等について（長野県松本市） ○伝統的建造物群保存地区について（長野県塩尻市）
3、実施結果に対する所感、意見等（質疑・意見交換した内容、今後の町政に生かすべき点等）
<p>8月1日 松本市</p> <p>日本では食料自給率が40%を下回る状況が何年も続いており、主要先進国と比較しても異常なものといえる。政府の農業政策に対する不熱心さが農業の衰退をもたらし、日本はいまや農産物の輸入大国といわれ、主食のコメまで輸入させられるようになってしまった。しかし一方で、一般家庭や外食産業では日常的に残菜があふれそれがごみの山となって廃棄されているという現実がある。</p> <p>松本市ではそういう現実を直視し、食品ロス（まだ食べられるのに捨てられてしまう食品のこと）をなくしぴみの減量化につなげようという取り組みが行われている。市内の飲食店などの協力のもと「残さず食べよう！30・10運動」「残さず食べよう！推進店・事業所認定制度」の取り組みや、一般家庭対しては、園児、児童などを対象に環境教育事業の一環として食品ロスの問題を取り上げてごみの減量化についての意識付けを行うことによって家庭への波及効果を期待した取り組みなどが行われている。</p> <p>近年では食品ロスの問題は全国的なテーマとなり、昨年は「第一回食品ロス削減全国大会」が松本市で開かれた。私自身は「食品ロス」や「30・10運動」という言葉を耳にしたのはまだ最近のことであり問題意識がなかったが、松本市の熱心な取り組みに触れる中で、この問題は日本の農業問題ともかかわる大事な問題だと認識を新たにしたという意味で非常に有意義なものであった。</p> <p>8月2日 塩尻市</p> <p>長野県は全国でも有数の宿場町など重要伝統的建造物群保存地区が点在する地域である。その中で旧中山道の木曽谷に位置する「奈良井宿」は多くの観光客が訪れ、全国的に知られている宿場町であり、私たちが訪れた日も多くの観光客で賑わっていた。近年は外国人も急激に増えているという。街道筋には電線がなく、地下に埋設してあるのかと思ったら、予算がかかりすぎるので裏側を通しているとのことだった。この街並みを見渡すほどに、いわゆるインスタ映えするには十分過ぎるほどの景色に感動を覚えた。ここを訪れる多くの観光客が同じ思いでこの景色を眺めるのだろうと推察する。対応して下さった職員の方のとても熱心で力の入った説明に、地元の人たちの大変な努力でこの街並みが守られていることをあらためて認識した貴重な視察だった。また、「木曾平沢」は漆工町として栄えたところで、奈良井宿と並んで塩尻市の名所となっている。地区全体の70%が漆工に携わっているというだけあって、多くの工房が並んでいた。かつて木曽谷を多くの旅人が行き交った時代に思いをはせて時の移り変わりを感じるひと時を過ごすことができた。</p> <p>4、その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ）</p> <p>食品ロスの問題は今後町で取り組むべき大事な課題になると思う。まず食育の観点から子供たちへのアプローチをしていくことから始めたらどうかと思う。また、重伝建については、地元の協力を得て町としてしっかりと守っていくという姿勢が大事だと思う。</p>

視察研修等委員別報告書

1 作成者氏名
福田弘明
2 視察研修の実施名称
平成 30 年文教民生常任委員会県外視察研修
1、「30・10（さんまるいちまる）運動」と言われている食品ロス対策について。長野県松本市 2、奈良井宿地区を中心に重要伝統的建造物群保存地区、国有形文化財等について。長野県塩尻市
3 実施結果に対する所感、意見等
<p>1、「30・10（さんまるいちまる）運動」と言われている食品ロス対策について。</p> <p>まだ充分食べられるにも関わらず、賞味期限接近など、さまざまな理由で捨てられる食品、いわゆる食品ロスは、日本全体では年間 632 万トン。東京都民が一年間食べる量に匹敵する量であるそうです。その内訳は、半分は家庭から、残り半分が事業者から発生。このうち、事業者由来のうちでも発生率が多いのが「宴会」の 18.9%, つづいて結婚披露宴 13.4%, 食堂レストラン 3.5%。ということで、もったいない食べ残しをなんとかして減らそう、という観点から「会が始まってからの 30 分間は席について食事を食べよう」「最後の 10 分間に席で食事を食べきろう」という運動。</p> <p>所感；糖尿病が疑われる成人の推計が 2016 年に 1,000 万人となったとのことです。成人男性の 28.5%, 成人女性の 21.4% になるそうです。肥満の人も男性 31.3%、女性 20.6% にのぼる状況にあるそうです。また、成人の食物アレルギーを持っている方、食事の内容に、健康を踏まえ、こだわりをお持ちの方もおられます。こういった最近の日本人の健康の状況下では、会食者がメニューを選べないで食事が出される方式の下では、すくなくとも、宴会、結婚式等での食品ロスは改善されないであろう。</p> <p>提案；食するものを選べるバイキング様式でのパーティー形式の宴会方法を取り入れるなど、旧態依然とした今の宴会等の運営内容を改善することを考えるのが最善の方法であると思われた。また、食品ロスに含まれていない、宴会等における飲酒についても同様に、さしつさされつの酒の飲み方、ただ酔うための飲酒文化も一考すべきと思われた。</p> <p>2、奈良井宿地区を中心に重要伝統的建造物群保存地区、国有形文化財等について</p> <p>江戸時代後期の宿場町また木工業としての特徴を備えた、東西 200m, 南北 1.350m, 面積 16.7ha にわたる保存地区、時代劇で連想されるような街並みそのもの。これだけの規模は日本でも数少ないであろう、とにかく圧倒される規模である。</p> <p>所感；これだけのスケールであれば多少の流行はあれども末長く、国の内外の注目を集める文化財であることは間違いないと感じた。ただし、相当の予算も必要とされるであろう。</p> <p>4 その他</p> <p>奈良井宿地区的行政視察は今回を含め 3 度目、場所の選定は慎重に行うべきではないかと思う。</p>

視察研修等委員別報告書

1 作成者氏名
小栗芳雄
2 視察研修の実施名称（テーマ）
『長野県松本市』ごみ減量化のとりくみについて。（食品ロス対策等） 『長野県塩尻市』国選定重要伝統的構造物群保存地区及び国登録有形文化財等に対する取り組みについて
3 実施結果に対する所管、意見等（質疑・意見交換した内容、今後の町政に生かすべき点等）
<p>『長野県松本市』ごみ減量化のとりくみについて。（食品ロス対策等）</p> <p>平成 27 年、日本の食品ロスの発生量は、約 646 万トン（事業系：約 357 万トン、家庭系：約 289 万トン）で、世界全体の食糧援助量約 320 万トンの約 2 倍という膨大な食品が廃棄されている。国民一人当たりにすると、お茶碗約 1 杯分（139g）の食べ物を毎日捨てていることになる。</p> <p>現在日本の食料自給率は 38% しかなく、多くの食糧を海外からの輸入に頼っているにもかかわらず大量の食品を廃棄しているという矛盾があることを再認識させられた。</p> <p>松本市では平成 22 年度から「食品ロス削減事業」を開始し、平成 23 年 5 月には「残さず食べよう！30・10 運動」（サンマル・イチマル運動）を始めた。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><ul style="list-style-type: none">① 注文の際には、適量を注文しましょう。② 乾杯後 30 分間は席を立たず料理を楽しみましょう。③ お開きの前 10 分間は自分の席に戻って、再度料理を楽しみましょう。</div> <p>他にも、「残さず食べよう！推進店・事業所認定制度」や「小学校環境教育事業」などを始め『もったいない』をキーワードに多くの取り組みをしており、一般家庭 1 戸当たりの生ごみの量は平成 25 年と平成 28 年を比較すると 26% ほど減少している。しかし「手付かず食品」の廃棄量は 17.8% ほど増えているのが現状である。平成 29 年 10 月には、松本市を会場に 99 地方公共団体が参加しての「第 1 回食品ロス削減全国大会」が開催された。</p> <p>食料自給率が低水準で推移する中、全国的に食品ロスについての関心が高まりつつある。中之条町でも先進地について学び、食品ロスの削減とゴミの減量化に取り組む必要を感じた。</p> <p>『長野県塩尻市』国選定重要伝統的構造物群保存地区及び国登録有形文化財等に関する取り組みについて</p> <p>塩尻市には、「宿場町奈良井」と「漆工町木曾平沢」の 2 地区が、国選定重要伝統的構造物群保存地区に指定されている。そのほかにも、26 件の文化財が国から指定されており、歴史を色濃く感じさせる場所・時を感じる地区が大変多く有る地域である。</p> <p>塩尻総合文化センターで説明を受けた後、「宿場町奈良井」の現地視察をさせていただきました。「重伝建専門員の渡邊 泰」さんに説明をしていただきましたが、さすがに重伝建専門員と名刺にある通り重伝建に対する造詣はたいへん深く、歴史ある街並みを保存・復元・整備するためには膨大な予算、そして豊富な専門的知識と豊かな経験を持つ人材の必要性を感じました。</p> <p>私有物件では 85%、地方自治体が所有する物件では 50% と国からの補助金の割合が異なるし、公開できる施設の部分が異なることがあるなどは、物件を地方自治体が購入する場合には充分考慮する必要があることを感じた。</p> <p>4 その他</p> <p>今回の視察研修では、専門的な知識豊富な職員から奥深い説明受けたが、専門的な知識や技術・経験を必要とする職場は多く有るので、職員を適切に配置することの必要性を感じた。</p>

視察研修等委員別報告書

1 作成者氏名
安原 賢一
2 視察研修の実施名称（テーマ）
<ul style="list-style-type: none">・食品ロス、ゴミ減量化の取り組みについて（松本市）・重要伝統的建造物群保存の取り組みについて（塩尻市）
3 実施結果に対する所感、意見等（質疑・意見交換した内容、今後の町政に生かすべき点等）
<p>1) 食品ロス、ゴミ減量について</p> <ul style="list-style-type: none">・最近よく耳にしている 30.10 運動を松本市が中心となり行っていることに驚きました。・大切なのは一人一人が「もったいない」を意識して行動する、出来ることから始めてみる。・10月 30 日を食品ロス消滅の日に設定。・長野県も松本市と連携して県が残さず食べよう、30.10 運動を実施している。・出来そうでなかなか手がつかないところに県、市が力を合わせてゴミ減量だけでなく、食品ロスの取り組みを行っていることは素晴らしいの一言です。
<p>2) 塩原市の重要伝統的建造物について</p> <ul style="list-style-type: none">・中之条町とは重伝建の内容、規模も違いますが伝統的な古い建物、街並みを残すことの大変さ、莫大なコストが必要になることがよくわかりました。
4 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ）
<ul style="list-style-type: none">・ごみの減量、食品ロスは中之条町でもすぐに取り組める事であると考えました。・重伝建については時間とコストはかかりますが保存をしていく大切さ、大変さを感じました。